

# 日本災害看護学会先遣隊 令和6年能登半島地震活動報告

2024年1月19日(金)

活動隊員：畠山典子、三橋睦子、上路麻美

## 1. 活動日時

令和6年1月19日(金)

## 2. 活動場所

珠洲市立大谷小中学校

## 3. 状況（大谷地区）

本地域は、現時点では自衛隊等の車両での移動が必要な孤立地域であるため、物資や医療班等については、自衛隊とともに、避難所へ入っている。本日の大谷小中学校避難所避難者数：112名（51世帯）：体育館75名、感染症対応部屋35名、車中泊2名。本日より、仮設の水洗トイレが2基設置された。電気・ガスの状況は18日と変更なし。

## 4. 活動の実際

00：00 避難所の巡回

05：20 避難所の巡回

06：00 健康観察・血圧測定

07：00 各種相談対応 ホットタオル配布によるモーニングケア

08：00 避難所内本部と本日の朝ミーティング

09：30 換気・体操

換気と朝の体操では、オリジナルで介護予防の要素を取り入れたストレッチ体操を実施。長時間寝ている方や座っている方も多いため、エコノミークラス症候群の予防などのお話を合わせて行う。ほとんどの方が参加され、体操の後は、「気持ち良かった」という反応もあり、表情も良かったため明日以降も一日2回取り入れていく。

10：00 炊き出し

11：00 2次避難者の確認、説明

14：00 自衛隊医師回診

《夜間トイレから帰室できなくなる》

インフルエンザにてコホート入所中、1/18、22：30頃トイレに行くも自力で帰室できず、同室の妻と息子さんに支えられて帰室する。血圧150/90mmHg、P95回/分、SpO<sub>2</sub>94%（高血圧剤内服中）、打撲や運動障害などは認めないが、動きが遅く、反応が鈍い感じがするとのことで、自衛隊医師に診察依頼。「脱水」の診断で500mlの輸液指示があり、2時間半ほどで終了する。その後、動作も回復し、Bp132/84mmHg、P84回/分、笑顔を認める。

《両下腿下部から足先までの腫脹、皮膚乾燥、痂皮形成》

10年程前より下腿下部から足先にかけて腫脹・発赤があり(R>L)経過していたが、腫脹が昨日(1/18)に比べ1.5倍ほどに増加。睡眠時無呼吸等も認め、自衛隊医師に診察依頼。蜂窩織炎（白癬菌が原因）の診断で、軟膏処方（塗布）され、リバノール湿布の指示があるがリバノールが無く、アイスノンで様子を見る。睡眠時無呼吸については、対応できないとのこと。

15：00 2次避難に伴う健康観察票の作成・相談対応

相談内容について、血圧に関すること、日常生活に関すること、2次避難先で現在服薬している薬が

切れたときの対応についての相談が多い。本部に2次避難先における薬の処方に関して確認したところ、お薬手帳・保険証を持参し、2次避難先での医療機関にて処方可能であること、お薬手帳がない場合でも、名前・生年月日・住所がわかれば、処方も可能であると回答を得たことから、2次避難者への周知、千葉県職員とともに周知媒体作成と内容の確認を実施。

16:00 社会福祉協議会より、現在の避難所におけるボランティアニーズの調査。今後の支援を検討するにあたり、現時点でどのようなニーズがあるか各避難所を回っているとのこと。市の介護保険課認定調査および、石川県警・埼玉県警・群馬県警が一人一人の聞き取り調査を実施、住民からは見回ってくれることは安心であるという声が聞かれた。気象庁来所、大谷地区の地震計の点検。

19:00 大谷中小学校避難所本部会議ミーティング、ホットタオルの配布 相談対応

20:30 ラップポイントイレの作成と設置：新型コロナ感染症に罹患のため、2人で隔離されている被災者へ、ラップポンの室内設置について、その利点等について説明を行い、シミュレーションを行い同意が得られたため設置する。共に男性40～50歳代ADLは問題無い。

※2次避難について

20日10時半頃より、本避難所の43名が富山の2次避難所となるホテルへ集団避難を予定している。本避難所の避難住民は皆同じ二次避難先に移動予定。2次避難を行う皆様は、「一時的な避難だから頑張っていていきます。」「ありがとう。」と口々に笑顔でお話をされ出発をするも、いつ戻れるのかという不安を合わせもっている感情が読み取れる。また住み慣れた場所に戻りたいという希望をもち、2次避難を決めた方がほとんどである。避難希望者のうち、COVID-19罹患患者等については、療養期間終了後、次回の集団2次避難で移動予定。血圧測定・健康相談の実施。富山に二次避難した際の継続フォローに関する課題については、富山県内の支援団体からの申し出があったため、現在代表と調整中。

## 6. 考察

本日は、避難所の43名が明日2次避難先に移動するにあたり、健康確認票の記載フォロー、および体調確認、服薬中の薬の確認やかかりつけ医、基礎疾患等の確認等を行った。20日には集団2次避難される方は、「お風呂にも入れるし、少しゆっくりできて嬉しい」とお話す一方で、今後どのようなかわからない不安を抱えている。避難所においては、運営側（運営側も被災者含む）はボランティアスタッフ（避難所内の有志）や、避難されている方々からの信頼も厚く、大谷地区のコミュニティをととても大事にしている様子が伺える。2次避難される予定の方々は、現在の避難所を離れるのに不安があるも皆が同じ場所への集団避難を行うため、皆さんと一緒にいきたいという思いが強く、多くの方がそれらを語っている。一方、自立した生活が難しいことから、2次避難所ではなく1.5次避難をされる方もいる。1.5次避難所の場所は、大谷地区の住民の集団避難先とは異なるため、知り合いがいないなどADLの状況により1.5次避難所を選択する方とその家族の新たなコミュニティの課題がある。2次避難所を選択した方型も大谷地区はほとんどが高齢者であり、後期高齢者も多いため、2次避難後のサポートも重要な課題となる。集団2次避難を明日に控え、スタッフに積極的に声をかけて下さる方や新しい環境への不安を口にする方、便秘や下痢の相談する方など様々である。今後の2次避難に向けて、個々の意向や思いを踏まえた対応が必要である。

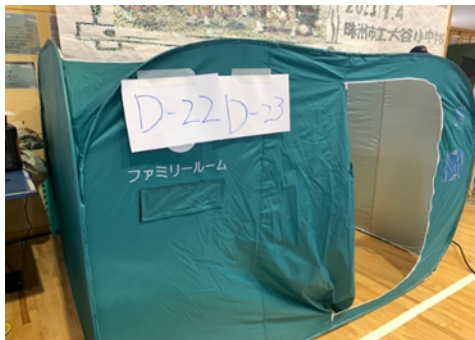
## 7. 参考写真



自衛隊医療班との調整



朝の体操・ストレッチ



プライベート空間の設置



避難所運営ミーティング



災害用トイレ（ラップオン）の設置



手洗い場